

県民協働型自然共生手づくり事業

「自然環境（遊歩道）の保全と活用及び里山（和みの里）の再生」

☆ 日 時：平成21年1月18日（日）9：00～12：00

☆ 場 所：八幡公園遊歩道、和みの丘（和木町瀬田）

☆ 参加者：35名

☆ 主催者：和木町林業研究会

1 スケジュール

9：00～	開会行事
9：10～ 9：40	学習会「現在の森林や里山について」
9：40～12：00	散策道、和みの丘の整備・清掃活動 樹名板の設置、小鳥の巣箱かけ、和みの丘に案内板等設置
12：00	閉会

2 活動内容

里地、里山の働きと人間活動との関係。現在の里山の様子、保全と活用について学び、樹名板、小鳥の巣箱の設置、清掃など散策道の整備をしました。また、遊歩道の途中にある和みの丘に丸太いすを設置し、ゆっくりと森林浴を味わえる場所をつくり森林浴説明板を設置しました。

【受付・開会行事】



手作りの名札（タモの木）に名前を記入



主催者代表のあいさつで始まりました

【環境学習】



「森林・里山は木の実、木材、薪などで自然の恵みを私達にもたらしてくれ利用してきた。しかし、人の生活様式が変化、里山・里地から都市への移住等により里山は荒廃してきた。最近、地球温暖化が話題になり森林の働きに注目が寄せられるようになった。森林の持つ様々な機能を発揮させるには、適切な手入れが必要。

今回の手づくり事業では、里山整備をした時の樹木を椎茸の原木等に活用する体験も実施する。」等の説明がありました。

【作業】

(散策道・和みの丘整備、清掃)

参加者全員で散策道・和みの丘の清掃活動を実施しました。集めた落ち葉はコンテナに入れ持ち帰り、主催者が腐葉土にしてカブトムシ養育に活用をします。



まさに里山。散策道側には、ドングリ、ヤマグリ、アケビ、クヌギ、マツ等様々な樹木がありました。

参加者は熱心に清掃中。いろんな年代と活動できることがとても良いでしょう。



今日のために中学生と一緒に作成した鳥の巣箱



和みの丘に設置する看板。五感を使って自然を感じて欲しいことを団体の方が言葉にされたもの



樹名板。全部で 28 枚を取り付ける



これと同型の丸太イスを和みの丘に設置します



和みの丘に設置



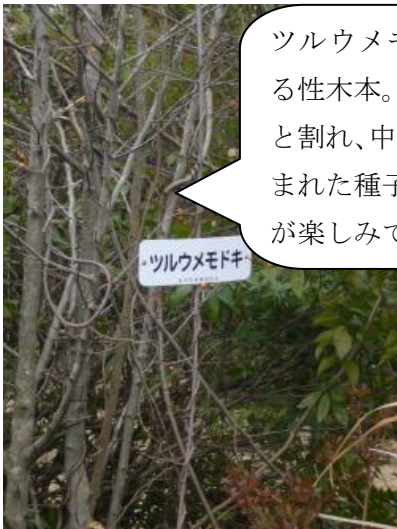
樹木の説明中





参加者で協力して樹名板を取り付けます

参加者と木の名前を確認しながら作業



ツルウメドキは落葉つる性木本。果実は秋に熟すと割れ、中から赤い皮に包まれた種子が現れます。秋が楽しみです。



ドングリは食べられます



案内看板を3カ所に設置

巣箱の取り付けは高さ2.5m、東向き（前方に木立があり、朝日を受ける向きに設置しました



(おまけ)



森林整備で出た木を利用した椎茸づくり



次回、原木椎茸の植菌体験に使う木



ヘビではありません。ヤマミミズです。きらきらの青紫色。落葉樹が多いこの場所は良く肥えたふかふか真っ黒な土でした。ミミズ等の虫が多くいました。生物多様性を目指す肥えた森林の土地です。